



祐吉の伊太利巡禮

祐吉の伊太利巡禮  
さい 東生

船は穏かな地中海を滑るやうに走つてゆく、もう二、三時間でナホリに着くといふので船の中が溶け合つなくなきさわめいてゐる。船客は殆んど皆ヨーロッパへは初旅だ。あがれたナボリを目の邊り見ようとする歎びに胸おどてか、それとも或る者は歐洲の一端に初めてその地を踏むと感じてか離も彼もその顔に動作に種の緊張ぶりを見せてゐる。祐吉も心落付かぬ面持で甲板へ上つたり下りたりしてゐたが愈々目指す外國へ來たのだと思ふと何となく深い不安と心配が伴ふのを感じた。外國で演じられたとんた失敗談やら滑稽談が想ひ出されただ。……外國では湯に入るのが日本のやうに手軽ではないさうだ。當分湯に入れないと心配が伴つた。だがどうしても心が落付かない。まあ心を離し静めてフロに入つた。だがどうしても心が落付かない。まあ心を離し静めてフロに入つた。まだ時間はある、さう思ふと祐吉はざわめく心を離し静めてフロに入つた。だがどうしても心が落付かない。まあ心を離し静めてフロに入つた。まだ時間はある、さう思ふと、チツとして湯に浸つてゐられなかつた。フロから飛び出しては飛び、飛びては飛び出して碧い空を見せてゐる小さな圓窓にのび上りのやうな、とう明さを惜し氣もなく窓をあけてゐる。空も全く眞實に碧いこれが南歐の特徴だと思ふなかに、なだらかに成つてゐる碧い空と海の間に散在してあるひは塔のやうに突立つた岩やおもしろい形をした岩を露出し、あるひは海際の平地に芝のやうな草のじゆつたのが嬉しかつた。そしてまた此の小さな圓窓の許す限りの眼界に想ひがけない青としめた美しい島々がそれからそれへと現はれて来るのを歎んだ。近く遠く此の碧い空と海の間に散在してあるひは塔のやうに突立つた岩やおもしろい形をした岩を露出し、あるひは海際の平地に芝のやうな草のじゆつたのが嬉しかつた。そしてまたうたんを敷つめ、巣にささめく眞白い波頭と照りそつて明い陽の下に純い緑の光を散らしてゐる美しさ！ 祐吉は恍惚として眺めた。…………さうだ。この景色を甲板から一望してやろう、もつときれいだらうそんな欲求に駆られて祐吉は大急ぎで服を着て甲板に上つて見ると、これはどうだ、船の反対の側にもうナボリは彼方陸地に見えるではないか！ おヨーボリ！ ナボリ！ 白色の町！ 祐吉は思はず叫んだ船が段々近づくにつづて祐吉がよく見てみるとその建物の白色は石灰色に似てゐた。風雨に曝された爲か

が書けなくなつてしまつた。それが此の二年間である。その内學校が心になつて來た。さうして祐吉の身心が落付いて來ると社會的變化がビシ、ビシと迫つて來た。その爲には生理上の變化がビシ、ビシと迫つて來た。その爲には生理的变化の方が少しつゆるやうになつて來た。さうして祐吉の立場から觀れば常識的であつてそのまま無難な常識的な青年としてしまつた。而も健全な真正な詩が作用して一時祐吉をして一個の「詩」の書けない青年としてしまつた夫に廿歳になつてから突然的に始つた祐吉の詩の生活には少くも真正なる詩はさうある可き立場や心持が解るには不思議とそれから来る精神的变化を蒙らねばならなかつたので一時まづく泥亂狀態におちいつてしまつた真正の詩の道に到る道を見るを見失つてしまつたのである。だから祐吉は自分の詩の生活の爲に自分から招いたやうな形になつてしまつた急激な性的變化の肢感化とそれから来る精神的变化を蒙らねばならなかつたので一時まづく泥亂狀態におちいつてしまつた真正の詩の道に到る道を見失つてしまつた。ただ争闘しやうと云ふ心底と努力が此の能動的な争闘を未然に防ぐことは少くなかった。さうしてどつちの生活にも拘泥することなくこの二年間を通して來たので初めのやうにさう詩は書けなくなると同時に又一方社會的には段々常識的な争闘となつてしまつた。まだ詩を書き出でたのである。だから彼がナボリといふ道の漸く入口まで來た頃にかれ「自分の詩」と云ふものを持つてゐなかつた。まだ詩を書き出でたのである。だから彼がナボリといふ道の漸く入口まで來た頃に自身には解らなかつた。彼自身は彼のヨーロッパ行が廻りあはせてめば後は事が解決する、時の力が祐吉に眞正の詩的生命を育だらうといふ道の漸く入口まで來た頃にかれ「自分の詩」と云ふものを持つてゐなかつた。まだ詩を書き出でたのである。だから彼がナボリといふ道の漸く入口まで來た頃に自身には解らなかつた。彼自身はもう早く「自分の詩」が書きたいと希つてゐたのである。だから今現にあれほどあこがれてゐたナボリを目の邊に見ても「自分の詩」の中に見出すことが出来ないのを知ると失望した。やつぱり自分は詩の書ける人間ぢやないんだといふ平生絶えずかされる懸念に捉

恭賀新  
旭洋明  
謹賀新  
家 具 商  
力ーザー  
松  
謹賀新  
太陽は東から  
—文化の源  
東洋  
謹賀新  
渡邊  
謹賀新  
聖市  
旭旅館内

恭賀新年	山田隆次
聖市コンデ街 電話二一二六八八	恭賀新年
タバチンゲイラ藥店 調劑主任 薬剤士 宣保寛良	謹賀新年
家具商 力一ザ廣島	謹賀新年
コンソラツソン街三〇〇	恭賀新年
昨年中は多大なる御引立に預り厚く御禮申上げます、本 年はまた一層の努力を致しますれば何卒倍舊の御愛顧賜 り度伏して願上げます	恭賀新年
東洋寫眞館 千木千下田昌勝雄勝勝雄 聖市コンデ街二三	謹賀新年
皆々様の多幸を祈り 倍舊の御愛顧を願ひます	謹賀新年
昭和四年一月元旦	遠藤商店主







**アマゾン追憶**

一 翁長白水郎

△大正元年九月中旬アンデス山を西から東へ越えてから大正三年五月下旬アマゾン河口を大洋へ出たまでの一年と八ヶ月間「ドレ・デ・オス河、ベニ河、マデーラ河に沿うて一介の労働者として彷徨ひ歩いた僕がアマゾンへ『アマゾン』への聲喧しき今日此追憶を書くことは強ち無用の業である。僕がアマゾン上流域へ足を入れた時はバラゴムの黄金時代は既に過ぎてゐたけれども尙新米の労働者にはチト分に過ぎる位の金貨をボケットにチャラチャラさせて居たのであるから三年五年の古株になると共に鼻息トテモ當るべからずであった。

△此景氣はペルー海岸地方の砂ぼろ耕地や棉耕地に於て一日一圓五十錢位にしかならない新移民を誘惑して山へ『山へ』と旅費を借りに押し寄せさせるやうになり、當時ボリビヤゴムの集散地であつた十錢位に幾何とも内に勞銀の低下を示すやうになつた。

△あの頃の一番金になる仕事はゴム採集であった。然しこれは艱難を要する仕事なので新参者の一年間はよく行つて收支差引〇、大抵の者は借金になる、當今珈琲園の半分にもならない、どれもこれも幻滅の悲哀を感じた誤りで、そこへ持つて来て採集貢銀を引下されたから尚更割が悪い新参者は實の山の積りでやつて來てみると話の半分にもならない、それと話の半分にもなり、それが引下されたから皆耕業した、其殘つた一人が大水後の畠へバタ、や野菜を作つて可なり儲かつたが、ついで手をのばしてカント儲かつた。何でも二ヶ年と十ヶ月の間に正味二万圓残したから大したものだ。△之を見た邦人は吾も吾もと野菜と米をやり出した、何しろ土地は河に沿うて一キロメートルに付、部貨十五圓位の手数料でいつまで借りられるのだから安いものだ。然し一寒村相手の野菜作りは忽ち値段の暴落で全部が失敗に歸した論つたが二度目からは思はしくなく対する感想を述べて見る

△感想一束

一所感

謹賀新年

PHARMACIA CASTOR  
DE UNBELINO LOPES  
Rua Alvares Penteado 5-A  
Teleph. 2-0349 - S. Paulo



アルヴァレス・ペントエード五  
有含トーソオレク  
ルートスカ、ペツロヤン  
薬効特寒惡、邪風、キセ  
ルートエル  
膏特療治海

日伯拓植株式會社  
バランサ耕地

大河内  
藥化研究所

聖市  
アツセンブレア三一

謹賀新年  
御手輕料理  
テオクレ食堂

謹賀新年  
昭和四年一月元旦

謹賀新年

大河内  
藥化研究所

Escriptorio "Nippo-Brasileiro"  
Av. São João, 85-A 1º andar, sala 12  
Caixa Postal, 3730 - Telp. 4-7150 - S. Paulo

賀正  
市一主任 喜味 盛德  
奉仕商會  
昭和四年一月元旦

海外興業株式會社  
伯國支店  
アニユーマス農場  
サントス南聖倉庫

謹賀新年

松田重正

恭賀新年

平凡寫眞師  
聖市コンデ街一二五

謹賀新年

力一ザ  
ソールナッセンテ  
雜貨商  
店主 高橋忠一  
賀正  
市一主任 喜味 盛德  
奉仕商會  
昭和四年一月元旦

ノロエステ線リンス驛  
恭賀新年  
雜穀仲買商  
アンデレス  
サンセス  
兄弟商會  
本店 聖市サンタ・ローザ街三六  
支店 リンス町  
主任 庄山吉  
郵局 二二一  
電話 九十九  
ノロエステ線リンス町

恭賀新年

汎リンス青年會  
ノロエステ線リンス驛

恭賀新年

雜貨商  
店主 高橋忠一  
賀正  
市一主任 喜味 盛德  
奉仕商會  
昭和四年一月元旦

改曆の御慶目出度奉賀候、昨年中は一方ならぬ御引立を蒙り厚く御禮申上候、尙本年も相變らず御愛顧の程願上候  
聖市コンデ街一二五

恭賀新年

雜貨商  
店主 高橋忠一  
賀正  
市一主任 喜味 盛德  
奉仕商會  
昭和四年一月元旦

改曆の御慶目出度奉賀候、昨年中は一方ならぬ御引立を蒙り厚く御禮申上候、尙本年も相變らず御愛顧の程願上候  
聖市コンデ街一二五

古川	中野了義	多羅間鐵輔	石井	濱口光雄	佐々木淳	古關富彌	佐藏正宜	農事部	江越信胤	北村豊治	大村信夫	福川薩然	會田慶佐	入江一清	堀江博	齊藤芳造	原口七郎	齊藤武雄	海本徹雄	在サンバウロ 帝國總領事館	千九百廿九年一月一日	謹賀新年 交換欄刺
妹尾正男	鳥賀陽良彦	栗山篤	矢崎靖	坂元	岡本秀之助	相良三介	繩田勲	村井稔弘	富永權	堀精一	長谷川武三	平山惣次郎	東後一美	今富正平	明穗梅吉	中野白鳥堯助	竹澤太一	海外興業會社	中野白鳥堯助	千九百廿九年一月一日	謹賀新年 交換欄刺	
北島弘毅	佐藤榮次	一聖	松岡憲一	伊藤陽三	工虎之助	大窪治	矢野熊太	運搬業	北村政吉	北村政吉	野間常夫											
村上誠喜	股野康之	山根寛一	安田義重	赤尾穆如	後藤武雄	安田良一	山崎芳藏	烟中仙次郎	武石潛藏	武石潛藏	イタケラ											
末廣	東京館	小川常盤	小川源右衛門	秋田彥三郎	大和坊迫健造	大和坊迫健造	恭賀新年															

## 謹賀新年

所次取符切定指社會船商阪大

## 市旅館同業組合

末廣	東京館	小川常盤	小川源右衛門	秋田彥三郎	大和坊迫健造	大和坊迫健造	恭賀新年															
中山忠太郎	仲村渠三郎	上地彌藏	上地彌藏	桂造	桂造	恭賀新年																
電話二五六三八番	電話四一四七六番	電話二一五七〇一郵局	電話二一六一七三番	電話二一四一〇二番	電話二一六一七三番	恭賀新年																
コンセ・デ・サルゼーダス街二二五	コンセ・デ・サルゼーダス街二二六	コンセ・デ・ビニャール街廿一	恭賀新年																			
マウア街二九一	マウア街二九一	マウア街二九一	マウア街二九一	マウア街二九一	マウア街二九一	マウア街二九一	マウア街二九一	マウア街二九一	マウア街二九一	マウア街二九一	マウア街二九一	マウア街二九一	マウア街二九一	マウア街二九一	マウア街二九一	マウア街二九一	マウア街二九一	マウア街二九一	マウア街二九一	マウア街二九一	マウア街二九一	恭賀新年

## 日本貿易商會

恭賀新年

リオ市  
聖市  
ルア  
ブリガディロ・トビヤス九六

## 謹賀新年

## 邊池寫眞館

手塚理髮店  
コンデ街三十一

## 正賀

GARAGE CONGRESSO

ソツレグンコ ジーラガ

力一ザ東京  
店主 杉本芳之助恭賀新年  
家 具 商恭賀新年  
カーザ東郷

恭賀新年

村上眞一郎

販賣部  
ルアグリッセリオ  
工場

中山伴一郎

恭賀新年



日本俱樂部テニ  
スコートべつ見

コトべつ見

コトべつ見

第六回 第六回  
が矢張りサーザが得手です両足を  
搦へ主眼空嘴上体を斜に打ち込む様  
はシャモの跋合そつくりです、こ  
の瞬間突然砂舞ふ闘鶏場が出現  
します初心の方は不文律を  
として一度は蹴上げることになつて居ます、領事館には大部傷手を負ふた方が居るそうです、だが三浦さんもおくさんよりは拙いと  
ろを見ればこのシャモ綴めること  
も容易らしい、兎角その技量は近  
頃目新しいものです、次は領事館  
の男将齋藤武さんです萬能選手で  
ファイティングスピリット旺盛です  
この人は顔に似合はぬづついて打たれます、この球はネットを越  
すと逆戻りします、撞球に於ける  
申後れて失禮ですが本俱樂部の精  
神部隊にして男子選手を後に譲る者  
たらしめる女流選手蜂谷夫人三浦  
夫人高岡夫人を有することは光榮  
の至りです、その投量は正真正銘  
本部女流選手に伍して豪邁純色は  
ござりません、乞ふ彼等戦士をして  
居ます、領事館には大部傷手を負ふた  
方が居るそうです、だが三浦さんもおく  
さんよりは拙いと  
（クワントン）  
に在り

謹賀新年  
家 具 商  
金 山 喜 三 郎

恭賀新年

サンントス日本人會

サンントス市

恭賀新年  
建築請負業  
丸野政義

賀新年

恭賀新年

建築請負業  
丸野政義

洋御菓子製造所  
原田高式  
榮門松

各船舶食糧賣込業  
ヤマ力合資商會













Redacção e Oficinas:  
Rua da Liberdade, 146  
End. Tel. NIPPAK  
Caixa Postal, 375  
Telph. 2-6183

# NIPPAK SHIMBUN

(JORNAL JAPONEZ)

Director:  
SACK MIURA

ANNO XV

S. PAULO - TERÇA-FEIRA, 1 DE JANEIRO DE 1929

No. 608

Redactor:  
JORGE T. MIDORIKAWA

## NOTAS E INFORMAÇÕES

Por motivos do advento do Anno Novo, cumprimentamos aos nossos prezados leitores, assinantes, anunciantes e colaboradores, desejando-lhes que o anno que hoje inicia lhes seja portador de muita ventura e felicidades perenes.

\*

Devido ao accumulo extraordinario de annuncios que nos são confiados, forçosos nos sentimos a confessar que esta folha está á disposição daquelles que por meio das suas columnas desejam fazer propagandas commerciaes, recusando, entretanto, as publicações tendenciosas, portanto prejudiciaes ao publico que nos lê, correspondendo dest'arte à confiança dos nossos leitores

\*

É esperado no porto de Santos a 29 do corrente mez, o vapor japonês «Wakasa maru», que vem conduzindo 308 imigrantes japonezes destinados para a lavoura cafeeira do Estado.

O vapor «Manila maru» entrará em Santos em 11 de fevereiro p. uturo, trazendo a bordo 804 imigrantes japonezes.

\*

De regresso de sua viagem de estudo aos Estados de Minas Geraes, Espírito Santo e Bahia, acha-se entre nós, desde 26 de dezembro p. finido, o sr. dr. Nobutane Egoshi, addido agronomico do Consulado Geral do Japão nesta capital.

S. s. iniciou a excursão pela cidade de Pirapora, de onde seguiu para a Bahia pelo rio São Francisco. Partindo dahi, depois de uma pequena permanencia, para Teófilo Ottoni. De Teófilo Ottoni viajou em carruagem até Sassuh Grande, no Espírito Santo, atravessando cerca de 150 kilometros de estradas serranas. Interrogado por um dos nossos redactores, declarou s. s. que as terras daquella região relativamente são boas, prestando-se para as lavoras.

Entretanto, o impaludismo tornam-nas quasi inhabitaveis.

«Até os macacos que habitam aquelles matos são completamente atacados por esta infecção terivel, diz o interlocutor, e é interessante notar que os burros não bebem a agua dos rios cujos leitos estejam cercados pela zona insa-

ARTIGOS JAPONEZES E NACIONAIS

K. NISHITANI  
IMPORTADOR E EXPORTADOR

Rua Conceição, 88  
Caixa de Correio, 1134 RIO DE JANEIRO

PHOTO  
OTTO STUDIO

TELEPHONE 2-5400  
Rua da Liberdade, 70  
SÃO PAULO

Artigos Japonezes em geral

VISITEM O VARIADISSIMO SORTIMENTO DA CASA

“O JAPÃO EM SÃO PAULO”

-FUNDADA EM 1906-

RUA SÃO BENTO, 60 — SÃO PAULO

Telephone: 2-2788

Caixa Postal, 344

## A JUSTIÇA NO JAPÃO

(Especial para "Nippak")  
OSAKA, Novembro de 1928.  
Sampei Kitada é o nome de um criminoso felizardo.

Em dias de agosto ultimo, penetrara numa casa de penhores e roubara varios objectos de valor, ameaçando os membros da casa, com o machado que levava.

Recolhido ao xadres, nesta cidade, a accusação pede 6 annos de prisão, isto em 8 do corrente mez.

O julgamento, seguido praxe, devia ter lugar, depois de uma semana no minimo da subida do auto. Entretanto, o juiz com o intuito de fazer com que o réo possa gozar dos favores da amnistia, concedida aos presos, por motivos da coroação do imperador, procedeu ao julgamento immediatamente, concludo o processo no mesmo dia.

DR. S. TAKAOKA  
MEDICO-OPERADOR

Rua Fagundes, 8  
Tel. 2-4180

S. PAULO

## DO JAPÃO

### BOLETIM POLITICO

TOKIO, Dezembro de 1928 (retardado) — O momento actual da politica interna saiu fóra de todas as expectativas. Todo o povo contava como certa a queda do governo do barão de Tanaka, logo apóis a enthronização do imperador Hirohito, o que não sucedeu e não sucederá antes da terminação da proxima legislatura de 1929. A causa predominante que permitiu a permanencia do «Seyukai» no governo, está certo, foi o desmembramento do «Minseitô», do bloco chefiado pelo sr. Takejiro Tokonami, que, com o fito de desfrutar "casting votes", formará um partido novo. Entretanto, o plano de tudo foi derrotado: o «Seyukai» não se deixou cair nesse truck e o novo partido ficou lambendo sangue... Nos círculos bem informados acredita-se, porém, que a queda do actual governo seja fatal, por quanto varios problemas ha que difficultam a sua duração, dos quais é mais momento, a ruidosa

a situação politica

no paiz atravessa agora uma phase curiosa de modificações: a queda fatal dos partidos reitantes e a organisação de pequenas facções em numero. O que provavelmente sucederá é a victoria muito proxima do partido trabalhista. A mesma phase pela qual passou a politica britannica, vai soffrer agora a Ipoítica nipponica... (Nippak)

### SHAKESPEARE EM JAPONEZ

TOKIO, Novembro de 1928 — Comemorando o seu 69.o aniversario e a conclusão da tradução da serie completa das obras do grande dramaturgo Shakespeare, os estudantes da Universidade de Waseda, da qual o conhecido litterato é professor honorario, ofereceram ao dr. Yuzo Tsubouti, uma festa genuinamente litteraria, por occasião em que foi tambem collocada a pedra fundamental da nossa primeira biblioteca dramatica.

O dr. Tsubouti, entre nós conhecido pelo pseudônimo «shôyô», traduziu o «Julio Cesar» ha 43 annos, cuja primeira versão não o satisfez, e somente no fim da terceira tentativa conseguiu encontrar o estylo que permitia tornar a tradução comprehensivel aos japonezes, das obras Shakespeareanas.

A obra completa está dividida em 34 volumes e é opiniao reitante entre os nossos letudos, que a tradução é perfeitissima.

### COMPANHIA DE TECELA-GEM JAPONEZA EM S. PAULO

“A Naigai Wata Kaisha” (Companhia de Tecelagem), com sede em Shanghai, enviou ao Brasil um dos seus gerentes, o sr. Banzo Kawamura, que se acha actualmente na capital paulista.

O conhecido industrial japonês que vai percorrer as zonas productoras de algodão, pretende conhecer a fundo as possibilidades da industria algodeira no Brasil.

moeda ouro

aspirada desde ha muito pelo

ASSIGNATURAS:  
Para o Brasil:  
Anno ..... 50\$000  
Semestre ..... 16\$000  
Para o Exterior:  
Anno ..... 60\$003

Endereço Telegraphico:  
"HACHIYA"

MATRIZ - RIO  
Rua Theophilo Ottoni, 85  
CASAS NO JAPÃO  
NAGOYA, KOBE E YOKOHAMA

Hachiya, Jamão & Cia  
IMPORTADORES DE LOUÇAS BRINQUEDOS, ARMARINHO E ARTIGOS JAPONEZES

RUA BRIGADEIRO TOBIAS, 110

TELEPHONE: 4-7688

SÃO PAULO  
CAIXA POSTAL, 2670

CHRO-  
MUR-  
KICAS  
BANAS

Os Estados Unidos são, como todos sabem, um paiz riquissimo em tudo, inclusive em originalidades... Os norte americanos não querem saber de coisas banaes, cuja banalidade detestam com risco de morte, e gostam muito de proporcionar aos seus co-habitantes do globo grandes surpresas. Isso que é o seu maior prazer...

\* \* \*  
A sra. Elizabeth Russell, não podendo contentar-se com a exiguidade da renda do seu marido, de 500 dollars mensaes, inaugura em California um restaurante, de societade com um conhecido seu, amigo tambem do mister Russell. Esperava desse novo business lucros formidaveis, lucros esses que aproveitaria para sua ostentação de "modern madam". Gastava, diariamente, sua renda bruta, e não pagava ninguem: nem o armazem, nem o padiceiro, nem o verdureiro, nem a fabrica de macarrão...

Passam-se semanas e mais semanas: ninguem é "Bank Note Company" e o açougueiro foi o primeiro a reclamar a conta, o que não foi attendido.

California é terra de justiça: O credor da talentosa mistress não perde tempo em insistir a cobrança dos seus 7.900 dólares e require a cobrança judicial. A appellada, por sua vez, julga que o seu esposo, o bondoso mister Russell estava na "obrigação" de zelar pela divida de sua esposa... e appellou o tribunal nesse sentido.

A justiça, em cujo seio o sr. Russell contava com muitos prós, não teve remedio, não obstante que os juizes tivessem pena do pobre marido e julgou procedente a allegação do celebre advogada...

E este originalissimo julgamento confirmou mais uma vez a altura a que alcançará o direito feminino na terra dos yankees, inclusive o de contrahir qualquer quantidade de divida, para o marido resgatá-la...

Joe Maddi

DIRECTOR DE COLONISACAO

DO ESPIRITO SANTO

Esteve recentemente neste Estado, afim de visitar as zonas sericolas, o dr. Djalma Eloy Hees, director de Terras, Imigração e Colonização do Estado do Espírito Santo.

Em companhia do dr. T. Takezawa, director geral da Kaigai Kogyo, visitou o illustre excursionista a colonia japoneza de Cotia, onde permanecera algumas horas. O dr. Hees, ao que consta, ficou maravilhado com o progresso agricola daquelle importante e laborioso centro.

\* Edição de 16 páginas \*